

## 評価の局面と形容詞文の解釈

仲本康一郎 高梨克也 井佐原均  
独立行政法人 通信総合研究所

### はじめに

形容詞(文)は、外界の状況を客観的に述べるだけでなく、何らかの主観的な評価の意味を含んでいる場合が多い。従来の分析(=現存の辞書)によると、このような評価の意味は、個々の形容詞の辞書の意味として表示されてきた。これに対し、本稿は、評価の意味は、形容詞の内在の意味と考えられるだけでなく、副詞や接尾辞によって解釈が強制される場合、また、聞き手によって語用論的に評価の意味が読み込まれる場合などがあることを明らかにする。

### 1. 「記述形容詞」と「評価形容詞」

日本語の形容詞は、(相対的に)記述の意味だけを持つ「記述形容詞」と、何らかの評価の意味をふくむ「評価形容詞」があり、後者の場合、評価の意味は、辞書の意味として記載されてきた(IPAL 形容詞辞書 [1], 飛田・浅田 [2] 等)。

- (1) a. この町は にぎやかだ。  
b. この町は さわがしい。

● 記述の意味： 人が集まり活気があること

● 評価の意味：

- a. 「にぎやかだ」： プラスの評価(快)  
b. 「さわがしい」： マイナス評価(不快)

しかし、次のような例において、評価の意味を辞書の意味として考えると問題が生じる。

- (2) A： あら、この車、小さいわね。  
B： 小さくってわかったな。  
A： かわいいなと思っただけよ。

### 2. 形容詞文の二つの局面

本稿は、形容詞(文)の評価の意味や評価的解釈を考えるにあたり、「評価の局面」という視点を提案したい。筆者らは、現段階で、一般的に、おもな形容詞の局面として、次のような二つの局面が想定できると考えている。

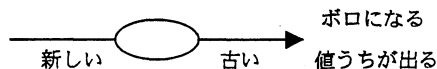
- ◆ 事態の局面： 形容詞の(語彙的)アスペクト
- ◆ 評価の局面： 形容詞の(語彙的)モダリティ

### 3. 状態と局面<sup>2</sup>(仲本 [4])

日本語の形容詞は、単なる「一時的状態」を表わすだけでなく、何らかの出来事が想定されて、そのような出来事の一局面を表わすものがある。

- 状態形容詞： 例) 太郎君は 元気だ
- 局面形容詞： 出来事の一局面を表わす形容詞

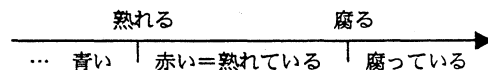
(3) この本は 新しい/古い



また、このような解釈は、他の形容詞に対しても適用される語用論的な解釈である。

● 状態形容詞の局面解釈：

- (4) a. この実は 青いね (=熟していない)  
b. あいつは 青いな (=一人前でない)



● 局面形容詞の再解釈：

次の例では、事態の推移が逆向きになっている。

- (5) a. パソコンが 新しくなった。  
b. お母さんが 若くなった。

<sup>1</sup> 本稿は、形容詞を意味的にとらえ、イ形容詞とナ形容詞などの形態的な違いは考慮しない。また、形容詞文というときは、形容詞を述語として用いた文をさす。

<sup>2</sup> 「(事態の)局面」は、動詞のアスペクト分析の概念として用いられた“phase”という概念(Comrie [3])を形容詞に拡張して用いたものである。

#### 4. 記述と評価：もうひとつの局面解釈

同様に、先に見たように、日本語の形容詞は、単なる対象の「記述」を表わすだけでなく、対象に対する「評価」を表わすものがある。

- 記述形容詞：例) くじらは 大きい
  - 評価形容詞：正や負の評価をふくむ形容詞
- (6) この本は おもしろい / つまらない



また、同様に、このような解釈は、他の形容詞に対しても適用される語用論的な解釈である。

#### ● 記述形容詞の評価解釈：

- (7) a. あの人も まるくなった  
b. しかくいあたまをまるくする  
[某学習塾の広告]

#### ● 評価形容詞の再解釈 [河上 [12] (一部改変)]

- (8) 代官：おまえもわるい (い) 奴よのう。  
商人：お代官様にはかえません。

#### 5. 評価局面とその諸相

##### ■ 評価の局面

「善」「美」「快」などの主観的な基準に基いて構成される (一次元または二次元の) 空間

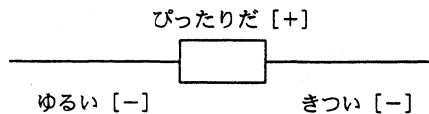
##### ■ 評価局面の諸相

評価の局面は、「最適値」の位置に基いて、意味的に大きく二つのタイプがある。<sup>3</sup>

- (9) 「うまい」と「まずい」



- (10) 「きつい」と「ゆるい」



○：段階的      □：非段階的

<sup>3</sup> Cruse [5] は、対義語構造を三つに分類しているが、それらは最適値の有無と位置に動機づけられた構造と考えるのではないだろうか。

##### ■ 段階性と副詞のタイプ (工藤 [7]、外池 [8])

- (11) a. とても、かなり、けっこう、ちょっと  
b. ほぼ、ほとんど、だいたい、おおよそ  
(a：程度副詞、b：概括量副詞)
- (12) a. 服が とても [きつい / ?びったりだ]  
b. 服が ほぼ [びったりだ / ?きつい]

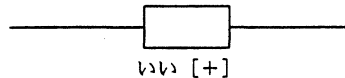
#### 6. 構成される評価局面：形容詞の評価解釈

評価の局面は、次のように、文脈によってどちらのタイプの局面か曖昧な場合もある。

- (13) この服は とってもいい。(=すばらしい)



- (14) この服は ちょうどいい。(=びったりだ)



以下、どのように評価の局面が構成されるか、次の二つの場合に分けて考えてみたい。

- ◆ 意味論的に評価的解釈が強制される場合
- ◆ 語用論的に評価的意味が読込まれる場合

#### 7. 意味論的评价解釈：解釈の強制

##### ■ 解釈の強制とは? (Pustejovsky [9])

述定や修飾により組合わされた語のあいだでタイプの不一致がおこり解釈が不能となる場合、項のタイプを述語や修飾語のとりタイプに変換する操作

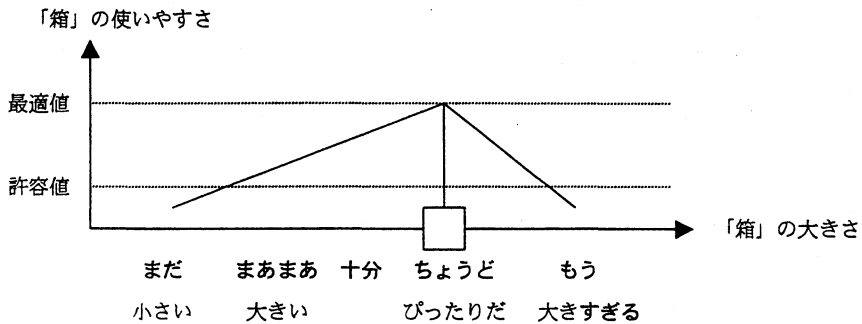
例) 親子丼、はじめました!

##### ■ 相関的程度表現 - もうひとつの程度表現

以下にあげた副詞は、単なる一次元の程度を表わすのではなく、何らかの行為の可能性 (アフォーダンス) とのあいだの二次元的相関関係を表わす。

- (15) [パソコンを入れる箱を探している]
- a. この箱は まだ {小さい / ?大きい}  
b. この箱は まあまあ {大きい / ?小さい}  
c. この箱は 十分 {大きい / ?小さい}  
d. この箱は ちょうどびったりだ  
e. この箱は もう大きすぎる

(16) 「対象の評価」と「行為の可能性」の相関関係



■ 負の評価の緩和表現 (Leech [11])

(非難) という行為は「丁寧さの原則」を満たさないため、程度を弱める表現が、そのような行為をやわらげるために用いられるようになったという指摘がある。

(17) 負の評価の緩和表現：

- a. この箱はちょっと (小さい/大きい)
- b. この箱はちょっと (きたない/?きれいだ<sup>4</sup>)

8. 語用論的评价解釈：主体的読込み

また、評価的解釈は、形容詞や副詞などの内在的な意味によって活性化されるだけでなく、聞き手によって主体的に「評価の基準」が導入されることもある。

■ 主体による評価的解釈

- (18) a. この車、小さいわね。 = (2)
- b. [この車は小さい] ⇒ ??? (評価)

(19) 〈主体〉が想起できる評価の基準

- a. 美の基準：  
[この車は小さい] ⇒ この車はかわいい
- b. 快の基準：  
[この車は小さい] ⇒ この車はきゅうくつだ

■ 評価の認知的構造

このような事実から、「評価」は、何らかの「主体<sup>5</sup>」による対象に対する主観的態度として定義され、次のような認知的構造を持つと考えられる。

<sup>4</sup> 最近は、「ちょっとオシャレなお店」のような表現などで「ちょっと」がプラス評価に用いられることもある。

<sup>5</sup> 「主体」は多くの場合、発話者と同定されるが、「皮肉」のように主体と発話者が一致しない場合もある。

(20) 評価の認知的構造

[対象の記述] ⇒ (主体による) 対象の評価  
(⇒ : 因果関係)

9. 処理の観点：評価の基準の推定

■ 解決されるべき問題

評価的解釈は、処理の観点から、次のような二つの問題を解決する必要がある。

- ◆ 評価の基準の推定
- ◆ 正か負の評価の判定

第一に、形容詞が内在の意味として、評価の基準や評価的な正・負の値を持っている場合は、それらを項目ごとに辞書に記載すればよい。

第二に、ある種の程度副詞が付加されている場合、正か負の評価の判定は可能であるが、何らかの方法で、評価の基準が推定される必要がある。

第三に、形容詞や副詞等から評価の意味が推測不可能な場合、評価の基準の推定とともに、正か負の評価の判定も必要となる。

■ 評価の基準の推定

形容詞の意味に基づく評価基準の推定が困難であるかぎり、その他の言語的情報や会話の状況等の非言語的情報の利用が問題になる。

以下、暫定的に、言語処理上利用可能と考えられる情報を挙げてみたい。

① 被修飾名詞 (例：車) が一般的に持つ属性

例：スピード、乗り心地、デザイン、収容能力など

② 当該の目的行為： 談話情報、知識情報

例：引越しのための車を捜している

③ 登場人物の嗜好： 談話情報、知識情報

例：話し手は小さいものが好きである

#### 10. 評価解釈と発話行為のレベル

最後に、評価の意味は、行為のレベルにおいてどのように実現するか考えてみたい。

##### ■ 賞賛と非難 参考) 感謝と陳謝

基本的傾向として、正の評価は「賞賛」、負の評価は「非難」として解釈される。

(21) a. おまえはいい奴だ。 (賞賛)

b. おまえはわるい奴だ。 (非難)

##### ■ 皮肉とからかい

しかし、次のように評価のタイプと行為のタイプに乖離が起こることもある。

(22) a. きみはいい奴だね。 (皮肉<sup>6</sup>)

b. おまえもわるい奴だ。 = (12) (からかい)

(21b) と (22b) は、「本気さ」という行為に対するメタ的意図において異なる (Leech [11])。

● 非難： 本気で咎めること

● からかい： 本気でなく咎めること

参考) メタ・コミュニケーション (Bateson)

(24) a. [[] ⇒ おまえはわるい] 非難]

b. [[] ⇒ おまえもわるい] 非難] からかい]

このような「からかい」などのメタ的な言語使用については、話し手と聞き手のあいだの相対的關係など社会的相互作用が関わると考えられる。

#### おわりに

本稿は、形容詞(文)の評価の意味は、単なる意味論の問題でなく、基本的に語用論的解釈の問題であり、幾つかの階層的なレベルを立てる必要性があることを述べた。また、評価的解釈の処理における利用可能な情報源について簡単に触れた。

<sup>6</sup> 皮肉に関しては、ことばの不誠実な使用を含んでいるため、(23) とべつの分析が必要となるだろう。

#### 参考文献

- [1] 情報処理振興事業協会. (1990) 『計算機日本語基本形容詞辞書 IPAL(Basic Adjectives)』, 解説編・辞書編. 情報処理振興事業協会.
- [2] 飛田良文・浅田秀子. (1991) 『現代形容詞用法辞典』, 東京堂出版.
- [3] Comrie, B. (1976) *Aspect: An Introduction to the Study of Verbal Aspect and Related Problems*, Cambridge University Press.
- [4] 仲本康一郎. (2000) 「時間認知を反映する形容詞・形容詞の局面解釈をめぐって」. 『関西言語学会プロシーディング』, No.23, pp. 109-119.
- [5] Cruse, D.A. (1986) *Lexical Semantics*, Cambridge University Press.
- [6] Backhouse, A.E. (1994) *The Lexical Field of Taste: A Semantic Study of Taste Terms*, Cambridge University Press.
- [7] 工藤浩. (1983) 「程度副詞をめぐって」, 渡辺実(編) 『副用語の研究』, 明治書院, pp. 176-198.
- [8] 外池俊幸. (1990) 「形容詞の段階性/非段階性」. 『ソフトウェア文書のための日本語処理の研究 10: IPAL(Basic Adjectives)をめぐって』, 情報処理振興事業協会技術センター, pp. 17-76.
- [9] Pustejovsky, J. (1995) *Generative Lexicon*, Cambridge: MIT Press.
- [10] 八木克正. (1987) 『程度表現と比較構造』新英文法選書7, 大修館書店.
- [11] Leech, G. (1983) *Principles of Pragmatics*. London: Longman.
- [12] 河上誓作. (1993) 「発話行為とアイロニー」, 『英語青年』, Vol.139, No.5.
- [13] 岡本雅史. (1996) 「階層的発話解釈モデルによるアイロニー発話の了解および解釈のプロセスの分析」, 修士論文, 京都大学.
- [14] 高梨克也・井佐原均. (2001) 「発話理解の多重性と会話進行: 説明的発話連鎖の分析」. 言語処理学会第7回大会発表論文集, pp. 417-420.